

平成 2 3 年度事務事業評価調書

平成 2 3 年度作成

平成 2 2 年度 実施事業	事務事業名 ポンヤンケシ川改修事業
-------------------	--------------------------

区分	番号	名 称						
章	2	自然とともに暮らすまち						
節	3	安全に安心して暮らせるまちづくり						
施策	1	総合防災体制の整備						
小分類	3	治山・治水対策の推進						
主要な施策	2	治水事業の推進						
事務事業番号	005	<table border="1" style="font-size: small;"> <tr> <td style="background-color: #f4b084;">事務事業コード</td> <td>23132005</td> <td style="background-color: #f4b084;">事業開始年度</td> <td>平成 2 2 年度</td> <td style="background-color: #f4b084;">事業終了年度</td> <td>平成 2 5 年度</td> </tr> </table>	事務事業コード	23132005	事業開始年度	平成 2 2 年度	事業終了年度	平成 2 5 年度
事務事業コード	23132005	事業開始年度	平成 2 2 年度	事業終了年度	平成 2 5 年度			

会計種別	一般会計	予算書上の事務事業名	ポンヤンケシ川改修事業
------	------	------------	-------------

部 名	都市整備部	グループ名	土木G
-----	-------	-------	-----

統合前または名称変更前の事業名	
-----------------	--

事務事業の目的と成果

目的	<p style="background-color: #ffffcc;">(事務事業の実施目的を具体的に記載してください)</p> 未改修の河川を整備することにより、危険箇所を解消し、防災機能の向上と暮らしにおける安全・安心の確保を図る。
手段 (事業の内容・活動)	<p style="background-color: #ffffcc;">(目的を達成するためにどのような手法で行うのか、事業の概要を具体的に記載してください)</p> 全体整備計画 河川延長 130m、河川幅 5.0m、管理用通路幅 3.0m+1.0m 平成22年度 実測実施設計 一式、用地測量 一式、河道計画 一式、護岸設計 一式 平成23年度 用地買収 一式 平成24年度 用地買収 一式 平成25年度 護岸工事 (両岸) 43m 河川フェンス(両岸) 103m
成果	<p style="background-color: #ffffcc;">(事務事業の実施成果を具体的に記載してください)</p> 大雨に伴う河川の氾濫を防止し、道路や宅地への浸水等の被害防除に繋がる。
根拠法令等	<p style="background-color: #ffffcc;">(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称をすべて記載してください)</p> 河川法

指標の推移

区 分		単位	区分	22年度 実績	23年度 目標	24年度 目標	25年度 目標	26年度 目標
成果 指標	整備延長	m	目標値				130	
			実績値					
			目標値					
			実績値					

事業費の推移

区 分		単位	22年度 決算	23年度 当初予算	24年度 見込	25年度 見込	26年度 見込	24～26 年度	
事業の 財源内訳	国庫支出金 名称	社会資本整備総合交付金	千円		12,000			0	
	道支出金 名称		千円					0	
	地方債 名称		千円	9,700	8,400	5,400	10,900	16,300	
	その他 名称		千円					0	
	一般財源 名称		千円	65	3,900	700	1,300	2,000	
合 計				9,765	24,300	6,100	12,200	0	18,300
(参考) 上記事業を実施する上で 必要となる人件費		職 員	千円	2,947	3,445				
		嘱 託 員	千円	0	0				
		臨時職員	千円	0	0				
		合 計		2,947	3,445				

担当グループによる事務事業評価の内容

1. 事務事業の妥当性について			
今後も市が事業主体として実施していくことは妥当ですか？	→	妥当である 妥当ではない	→ 妥当である理由、妥当ではない理由は何ですか？ 市の河川整備に関すること、民間に類似した事務事業がないことから、市が事業主体として実施することが妥当である。
2. 事務事業の成果について			
成果はあがっていますか？	→	成果があがっている どちらかといえばあがっている 成果があがらない	→ 成果があがっている理由、あがらない理由は何ですか？ 測量調査、河道計画策定の実施段階であり、整備工事を実施していないため。
3. 事務事業の成果向上について			
成果を向上させることはできますか？	→	大きく向上させることができる 少し向上させることができる 向上させることはできない	→ どのようにして向上させますか？ 向上させることができない理由は何ですか？ 順次、用地買収と整備工事を実施していく。
4. 事務事業の経済性・効率性について			
成果を落とさずにコスト（予算や人工、所要時間）を削減することはできますか？	→	削減できる 削減できない	→ どのような方法でコストを削減しますか？ 削減できない理由は何ですか？ 今後、用地買収と整備工事を実施することとなり、工事内容からコスト削減の工種などの要素がない。

担当グループによる評価

維持	左記の評価を選択した具体的な理由（根拠）	本事業は河川整備事業であり、事業区間の全部を完成して目的を発揮するものである。
-----------	----------------------	---

総合的な評価（当該事務事業の方向性）

維持	備考
-----------	----

評価の種類

- 拡大（事務事業の規模や経費を拡大し、これまで以上に強力に推進する事務事業）
- 維持（現状の対象や目指す姿、手段などに変更が無く、今後も実施する事務事業）
- 改善（現状の手段や経費などを見直し、成果指標の向上等を行う必要がある事務事業）
- 休止（暫定的に休止する事務事業）
- 終了（当初から決められていた事業期間が終了または成果品等が完成し、目的を果たした事務事業）
- 廃止（当該事務事業の予定を変更し、廃止する事務事業）